

移動式泡消火設備 仕様書

YPP-50U (S)

ヤマトプロテック株式会社

1. 概要

防護対象物内の火災発生時、消火ポンプを起動し、直近の移動式泡消火設備を手動により操作し、泡水溶液を放出し、消火させるものです。

格納箱に収納された加圧混合装置（プレッシャー・プロポーションナー）で泡水溶液（3%）を生成させ、泡ノズルから泡を放出して水では消火困難な油火災の消火に適応。

2. 消火設備

(1) 型式

移動式泡消火設備

YPP-50U

YPP-50US（総合盤付）

(2) 設計準拠法規及び規格

(イ) 消防法施行令、施行規則によります。

(ロ) 日本工業規格（JIS）

(3) 泡消火薬剤量

エアフォーム 3%型 45ℓ

(4) 設置基準

1) 自動車の修理若しくは整備の用に供される駐車場の用に供する部分 消防法施行令 第13条1項

2) 防護対象物の各部からホース接続口より半径15m以下となるように設ける。 消防法施行令 第15条1項2・3号

※3) 火災のとき著しく煙が充満するおそれの無い場所に設ける。 消防法施行規則 第18条4項1号

4) 泡水溶液がノズル1個当たり100ℓ/minで15分間放射することが出来る量。 消防法施行規則 第18条2項4号

5) 格納箱表面には「移動式泡消火設備」と表示。 消防法施行規則 第18条4項4号

6) 格納箱の上部に赤色の灯火を設ける。 消防法施行規則 第18条4項4号

※ 煙が著しく充満しない場所等については、各市町村条例により定義されている。

3. 仕様

(1) 混合方式 プレッシャー・プロポーションナー※

圧力損失 0.024MPa (at 100ℓ/min)

※ホースの圧力損失は0.024MPa、泡ノズルの最低使用圧力は0.35MPaより、混合器の1次側の圧力は、0.4MPa（≒0.024MPa+0.024MPa+0.35MPa）以上必要です。

(2) 貯蔵タンク

消火薬剤量	エアフォーム3%型	45ℓ
最高使用圧力	0.96MPa	
耐圧試験圧力	1.44MPa	

(3) 泡ノズル YFN-100R

吐出圧力	0.35~0.70MPa
吐出流量	100ℓ/min (at 0.35MPa)

(4) 消防ホース 40A×20m 1本

(5) ボックスサイズ 1375 (H) ×900 (W) ×370 (D)
1610 (H) ×900 (W) ×370 (D) (総合盤付)

※プレッシャー・プロポーション方式とは

混合器主管に設けたオリフィスにより、流量に応じた差圧を発生させます。オリフィスの1次側より加圧水の一部を給水管、散水管を経て原液タンク内に圧入します。ラバーストックを介して、原液タンク内の原液は原液管・原液オリフィスを経て混合器に流入し、混合器の流水と混合します。比例混合は主管オリフィスと原液オリフィスの面積比によって行われ、適切な泡水溶液を生成します。

4. 使用方法

- (1) ポンプを起動
- (2) 泡ノズルを取り出し、ホースを伸ばす
- (3) 元弁をゆっくり開ける
- (4) 給水弁を全開
- (5) 原液弁を全開
- (6) 泡ノズルより泡を放射する

(注) 泡ノズル圧力は、0.35~0.70MPa になるようにして下さい。

5. 泡消火薬剤充填方法

- (1) 全ての弁を閉じる
- (2) 充填口キャップを開ける
- (3) 泡立たないように、充填口にホースを入れてゆっくり消火薬剤45ℓを充填する

(注) 排液弁 (15A) に、ホースを接続して消火薬剤を充填してもよい。

- (4) 充填後は、全ての弁を閉じる

6. 使用後の処置

- (1) 排液弁を開けて、貯蔵タンクの圧力を抜く
- (2) 充填口キャップを開けて、排液弁より排液を全て抜く
- (3) 排液が全て抜けたことを確認して 5.泡消火薬剤の充填方法 の要領に従って、作業を行う

7. 設置上の注意

点検に便利で、火災の際の延焼のおそれ、及び衝撃による損傷のおそれが少なく、かつ、薬剤が変質するおそれが少ない箇所に設けること。